

# 「人権と共生社会」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能      思考力・判断力・表現力      主体的に学ぶ力  
 他者とのかかわる力      社会貢献力

## ① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

### 1 単元観

本単元について、中学校学習指導要領の社会科公民的分野「2内容(3)私たちと政治 ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の中で、「人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる」と記されている。つまり、「人間の尊重」とはどういうことか、それはどのような方法で実現できるのかを理解させることをねらいとしている。

日本国憲法第13条には「すべての国民は個人として尊重され」、「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」と述べたうえで、第14条には「すべての人は法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない」と書かれている。しかし、現代社会において社会的弱者に対する差別が散見される。社会的弱者とは、女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌ民族、被差別部落、在日韓国朝鮮人など多種にわたる。本単元は、このような現代社会の問題点を浮き彫りにするとともに、日本国憲法に規定されている「人間の尊重」「法の下に平等」を基礎として、生徒一人ひとりがどのような社会ならばすべての人が幸福に過ごすことができるのかを具体的に考えることができる単元である。そして、この単元の学習を通じて、公民としての基礎的教養を培い、民主的な社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

### 2 生徒観

「主体的な学び」に関するアンケートを7月に行った。

	項目	肯定的	否定的
主体力	授業のめあてを達成するために1時間の授業を頑張っています。		
	授業のめあてやレポートについて、自分から進んで調べ、書いて、発表しています。		
協働力	グループ・ペアで活動するときに、友達と協力して目標やめあてに取り組んでいます。		
	友達の良い発表やアイデアをいかして、自分の文章を書いています。		
創造力	自分らしい考えをいかして、「まず」「つぎに」や「比較すると」などの言葉を使って文章を書いたり発表しています。		
	「なぜだろう・どうしてかな・おかしいな」といつも質問を考えています。		
決定力	資料やデータにもとづいて、自分でわけや理由を深く考えています。		
	どんな方法でまとめたり、発表したりしようかを自分で考えて決めていきます。		
解決力	どうすればこの課題がとけるかを、いろいろと考えを出しています。		
	新しいことを学ぶときに、これまでに知っていることや学んだことをいかしています。		
成長力	自分の学習の仕方を振り返って反省し、もっと良い学習の方法を考えています。		
	自分に足りないところは何かを考え、もっとどんな力を付ければよいかを考えています。		

アンケート内で計った「主体力」，「協働力」，「決定力」，「解決力」，「成長力」の項目に関して，すべて80%以上の肯定的評価となった。授業では「なぜ」「どうして」を含めためあてを設定している。生徒は，めあてに対して意欲的に考え，資料を教科書や資料集から探し，自らの答えを文章化し，全体に発表している。生徒は全体発表をした仲間の良いアイデアをメモし，自らの解答文とともに仲間の良いところをふまえた振り返りを毎回の授業で書いている。授業への意欲の向上とともに仲間の発表を傾聴する姿勢が身に付きつつある。

しかし，『「なぜだろう・どうしてかな・おかしいな」といつも質問を考えています』という創造力の項目が，すべての中で一番低い数値であった。このことから「生徒自身が課題を発見する」授業を創造することが重要である。

### ○指導観

指導にあたっては，主体的な学びとなるよう，生徒がやってみたいと感じることのできるような授業にしたい。現代社会は，様々な生活背景をもつ人々が生活している。そのような社会の中で，受動的に生活するのではなく，自分たちが不自由に思うことが，この社会では大きな課題であり，その課題を解決することで多くの人々も幸せになるということを実感させたい。

本単元では，『「なぜ，人は差別をするのか。その理由を明らかにして，私たちが意識しなければならないことは何か」をテーマでプレゼンテーションを行う』というパフォーマンス課題を設定する。私たちの生活に直結する「差別」という課題について真剣に向き合うことを通して，公民的資質を養う。自らの意見を構築する中で，論理的に物事を考える力を身に付けさせる。さらに，発表する機会を設け，自分の考えが相手に伝えることができる力を身に付けさせたい。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 人間の尊重についての考え方を，基本的人権を中心に深めさせ，法の意義を理解させる。
- (2) 民主的な生活を営むためには，法に基づく政治が大切であることを理解させる。
- (3) 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。

### 2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
①基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方や，日本国憲法をはじめとした法に対する関心が高まっている。 ②人間の尊重についての考え方や，民主的な社会生活について考えようとしている。	日本国憲法に基づく政治により，国民の自由と権利が守られ民主政治が行われるということについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	①人間の尊重についての考え方や日本国憲法をはじめとした法に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。 ②収集した資料の中から，法の意義や我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることなどについての学習に役立つ情報を適切に選択して，読み取ったり図表などにまとめようとしている。	①全ての人間に保障されるべき基本的人権を中心として，人間の尊重の考え方を理解し，その知識を身に付けている。 ②基本的人権の理念は，現代の社会生活における人間の生き方の指針となると考えられることについて理解し，その知識を身に付けている。

### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語る力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに，正しい判断をする力（論理的思考力）	○
		②よりよい解決のため，いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし，解決しようとする力	○
他者とかかわる力	他	①他者と協力して，課題を解決したり，目標に向かって取り組んだりする力	○
		②他者とかかわりを通して，自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○

社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	○
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
		②自信を持つ力	—

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	「人間尊重」の基本的な考え方について自分の言葉でまとめさせる。
思ー①	教科書・資料集などに示された具体的な資料をもとに根拠を持って説明させる。
思ー②	話し合いや討論などで、他の人の意見に対する質問や自分の意見を述べさせる。
思ー③	ディベートやプレゼンなどの言語活動を取り入れ、表現の場を設定し、発言させる。
主ー①	学習テーマが自分たちの生活につながるようなパフォーマンス課題を与える。
他ー①	グループ学習やペア学習を計画的に実施する。
他ー②	他者の意見を傾聴する場面を設定する。
社ー①	パフォーマンス課題を通して、より良い社会生活を形成するために必要な力を身に付けさせる。

### ③ 単元計画

1 単元の全体像 (Ⅰ：学習内容, Ⅱ：学習活動, Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力)

Ⅰ「人間の尊重」を、Ⅱ現代社会にみられる社会的弱者に関わる諸問題について考察することを通して、Ⅲ「人間」が「尊重」される社会とはどのようなものなのかを考え、その社会の実現のために行動できる力を身に付ける。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
「なぜ、人は差別をするのか。その理由を明らかにして、私たちが意識しなければならないことは何か」をテーマにプレゼンテーションを行う。	A	人が差別する理由を具体的な事例・資料などをもとに論理的に説明することができる。差別を生まない社会を実現するために私たちができることを相手が納得できるように伝えることができる。
	B	人が差別する理由を具体的な事例・資料などをもとに論理的に説明することができる。差別を生まない社会を実現するために私たちができることを伝えようとしている。
	C	人が差別する理由を具体的な事例・資料などをもとに論理的に説明できているが、今後の社会についての自分の意見をうまく伝えることができていない。

### 3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価				
			関	思	技	知	
課題の設定	1	○現代社会は、本当にすべての人ことが認められた社会なのだろうか。 ●「個人の尊重」は日本国憲法において保障されていることを理解する。 ●人権は社会の中で「弱い立場の人々」を守る役割を果たしていることを理解する。 ●「子どもの人権」について理解する。	○			◎	「人間尊重」の基本的な考え方について自分の言葉でまとめることができる。(ワークシート・行動観察)【知-1】
情報の収集	2	○日本社会にはどのような背景をもった人々が暮らし、彼らの権利を守るために私たちができることは何かを考え、まとめる。 ●平等権の内容について理解する。 ●被差別部落、アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人の人々が受けてきた差別の歴史を理解する。 ●なぜ、出自による差別が生まれるのかを考え、解決策を考え、発表する。		◎		○	新聞記事や数値などの具体的な資料をもとに根拠を持って説明することができる。(ワークシート・行動観察)【思-1】
整理・分析	3	○私たち一人ひとりが社会の中で大切な存在であることを理解し、そのために国がどのような法律を作成し、私たちを守っているかを文章でまとめよう。 ●男女平等、障がいの有無、在日外国人に対する法律について理解する。 ●バリアフリー、ノーマライゼーションは一部の人のためのものではなく、日本に暮らす全ての人を対象とした考えであることを理解する。		◎		○	「人間尊重」の基本的な考え方について自分の言葉でまとめることができる。(ワークシート・行動観察)【思-2】
創造・表現・まとめ	4	○現代社会の課題「差別」について学んできたことを整理し、パフォーマンス課題『「なぜ、人は差別をするのか。その理由を明らかにして、私たちが意識しなければならないことは何か」を題にしてプレゼンテーションを行う』について取り組む。 ●グループで討議し、仲間との意見交流を通して、他者の意見から学び、自らの理解を深める。	○			○	新聞記事・企業の動向・数値などの具体的な資料をもとに根拠を持って説明することができる。(ワークシート・行動観察)【主-1 他-1 社-1】
実行・振り返り	5	○パフォーマンス課題『「なぜ、人は差別をするのか。その理由を明らかにして、私たちが意識しなければならないことは何か」を題にしてプレゼンテーションを行う。』 ●発表者は意見を論理的に伝えることができる。			○	○	ディベートやプレゼンなどの言語活動を取り入れ、表現の場を設定し、発言することができる。(レポート・行動観察)【思-2 思-3】
	6	○ちがいのちがいについてグループで討議し、発表する。 ●グループでの討議で自分の意見を丁寧に伝えることができる。 ●全体の発表を通して多面的・多角的な視点での思考について深め、自らの意見を振り返る。	○			○	ディベートやプレゼンなどの言語活動を取り入れ、表現の場を設定し、発言することができる。(レポート・行動観察)【思-3】

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

グループ討議，全体の発表を通して自らの思考を深める。

### 2 本時の評価

評価規準（評価の観点）	評価基準	
イ 日本国憲法に基づく政治により，国民の自由と権利が守られ民主政治が行われるということについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。（プレゼン・行動観察）【思考・判断・表現】	A	グループ内での意見を論理的に説明することができる。全体での発表の後，自らの思考を振り返り，多面的・多角的に物事をとらえることができる。
	B	グループ内で自分の意見を説明している。全体での発表の後，自らの思考を振り返ることができている。
	C	個人としての意見を持つことができない。他者の意見を聴き，新しい視点について理解することができる。

### 3 準備物

教科書，資料集，ワークシート

### 4 学習展開（5限目/6）

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (5分)	1 課題意識を持つ ○パフォーマンス課題に対するレポート内容を個人で確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【本時のめあて】</b>              グループで討議し，全体の意見をふまえて思考を深めよう。           </div> ○「めあて」を確認する。 ○カード・ワークシートを配布する。		◇本時の流れを説明し，目的意識を持たせる。			
展開 (40分)	2 グループ討議と発表 ○個人思考。 ○グループ討議  ○ウォークラリー。 ・グループの代表が補足を行う。 ・代表以外は各グループの討議結果を見て回る <input type="checkbox"/> …はっきり表現する ○グループで再度討議。 <input type="checkbox"/> …じっくり考える <input type="checkbox"/> …はっきり表現する		◇カードに書かれたイラストを見て，それらのカードを「あってよいちがよい」「あってはいけないうちがよい」。そのとき，明確な理由を持たせる。  ◇代表者が補足をする際，相手意識を持たせる。 ◇質問者は積極的に質問し，自分たちのグループと違う意見等はメモをさせる。  ◇自分たちのグループと他のグループの意見を比較し，もう一度カードの区別について協議させる。			デイバートや説明などの言語活動を取り入れ，表現の場を設定し，発言することができる。（レポート，行動観察） <b>【思-3】</b>
まとめ (5分)	3 まとめ ○全体交流。		◇グループで再度討議した結果，区別したカードが「あってよいちがよい」から「あってはいけないうちがよい」などに変った場合，全体に発表させる。			